



# 教会だより ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

日本バプテスト教会連合  
八千代キリスト教会

牧師 小林政和

八千代市大和田新田 94-77

Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925

Eメール: [gpnng725@gmail.com](mailto:gpnng725@gmail.com)

URL/<https://yachiyokyokai.org>

郵便振替:00190-4-554373

## 今年のみ言葉 ローマ人への手紙 8章 34節

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていただくのです。」

どなたでも ご自由にお入り下さい。お待ちしております。

日曜日・午前10時30分・礼拝

水曜日・午後1時30分・祈禱会

## 「最後の日に主の大軍が復活します」

牧師 小林 政和



5月24日に初めて武蔵野霊園(埼玉県入間郡毛呂山町南台3-1-4)へ行ってきました。当日は第50回東京地区連合の合同聖徒記念礼拝にもあたりました。この霊園は多くの宗教・宗派を受け入れている霊園で、その1コーナーをバプテスト連合東京地区が所持しています。私たち千葉県で持っているキリスト教だけの「ラザロ霊園」とは大きく異なります。そこには現在172名の遺骨が納骨されています。多くのご遺族が参加していて、「埋葬者氏名一覧表」が配られ、多くの知っている信仰の先輩、お世話になった方々のお名前を懐かしく見せて頂きました。約20数名の方は特別にお世話になった方々でした。行く前に練馬バプテスト教会で礼拝に出席しました。玄関のところに「召天者アルバム」が公開されていました。「この方もなくなっていたのだ」と、もと教会員の懐かしい故人の名前が記されていました。再び武蔵野霊園に行くと、その石碑に刻まれた故人のお名前がありました。同じ信仰者の、知っている者同士と一緒に復活する日の喜びに思いを馳せました。エゼキエル書37章の遺骨から人体が再生され、生き返る記述が思い出されました。最後の日にはこれが必ず地上で起きるのです。

『私は命じられたように預言した。私が預言していると、なんと、ガラガラと音がして、骨と骨とが互いにつながった。私が見ていると、なんと、その上に筋が付き、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。しかし、その中に息はなかった。そのとき、主は言われた。「息に預言せよ。人の子よ、預言してその息に言え。『【神】である主はこう言われる。息よ、四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。』」。私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中に入った。そして彼らは生き返り、自分の足で立った。非常に大きな集団であった。』(エゼキエル書37章7-10節)。記念礼拝の後、各教会の家族たちがお子様に加え、お孫さんたちとその配偶者たち、20人を超す大家族もあり、各グループが記念写真を撮っておられました。また別の教会のご一家のお母さんに「お子さんたちはどこ？」と聞くと、「うちの子たちはあそこ」と示された方を見ると、その家族の子、孫、ひ孫たち、将来を担う主の予備軍が多数たむろしていました。

## 5月3日(日) 聖餐式と河手姉の知人

この日は聖餐式が行われ、キリストの肉であり血であるパンとブドウ液を頂きました。河手姉の姉妹、友人の参加もあり、一緒に礼拝しました。



## 5月12日(火) 野崎宅家庭集会

近所の「京成バラ園」に寄り、それから家庭集会を行いました。

天候に恵まれ快適な1日でした。

教会の花 カーネーション (5月10日撮影)下橋



## 5月23日(土)「佐倉メサイアをうたう」

昨年の東京基督教大学クリスマスコンサートでの、混声合唱団に参加した時の指揮者・民秋理(ソプラノ)先生出演の、ヘンデルのメサイア全曲2時間半のコンサートでした。特に第2部終曲のハレルヤコーラスは感動しました。



## 5月24日(日)日曜礼拝

### ・賛美礼拝

小林牧師は別の教会の礼拝に出席のため、当教会では、小林義宣兄による礼拝が行われました。



## 5月24日(日)小林牧師武蔵野霊園にて

午前中は練馬バプテスト教会の礼拝に参加し、午後は東京地区連合の合同聖徒記念礼拝に(武蔵野霊園)参加しました。約170人のお骨が納骨されているようです。すでに納骨されているご家族も出席され、墓前一杯の人出でした。聖徒記念礼拝後に多くの出席者と交わりもでき感謝でした。(小林)



## メンバー紹介

### 「私の信仰と両親と」

中溝 玄

2000年に、日曜日の仕事の休みの日には八千代キリスト教会の礼拝に出席するようになりました。2011年7月、7年間務めたタクシー会社を辞めたあと、11月に現在勤務している「千葉中央バス(株)」に入社しました。大型バス運転が未経験だからと、初めはマイクロバスで千葉駅と千葉パルコ(パルコバス)の運転でした。免許取得から20年間ずっとオートマ車の運転ばかりだったので、大型バスのマニュアル車の運転がうまくいかず、路線バス運転の資格がなかなか取れずに苦労しました。



2013年ごろから祈禱会にも出席するようになり、聖書も少しずつ読むようになりました。「聖書のこよみ」に従って読み進めていくうちに、旧約聖書・新約聖書のことも少しずつ分かるようになってきました。このころから献金を欠かさずするようになりました。そして私は2024年7月に八千代キリスト教会の小林牧師によって洗礼を授けられました。

2011年11月に今のバス会社に入社して9年余り大型バスへの昇進を願い、2018年から中型バス、2019年から大型バスへと昇進しパートから準社員・正社員へと給与・賞与でもそれぞれ昇給昇格し順調に行くかと思いましたが、新型コロナウイルスの影響で京都行の深夜高速バスや、貸し切バスの運休・休止などにより、苦しい状況が続きました。



ローマ人の手紙12章16節に「自分を賢い者とうぬぼれてはなりません」とあるように自信過剰になると、事故等につながるのだとつくづく痛感しましたし、常に緊張感を持つことが重要であると感じました。父勝明は、5年前から認知症気味で、また右足も痛そうで、母恵津子も唯一健康とはいえ年齢だけに膝が痛そうです。休みの日は両親の病院通いや介護に忙しくしています。どうか私と私の両親のために祈ってください。

## 教会及び連合のスケジュール(予定)

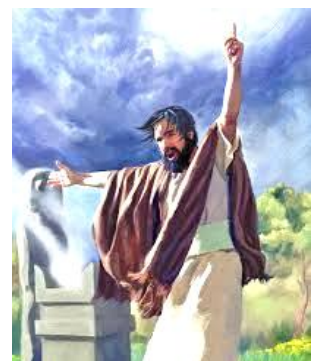
- 4月01日(水) 洗足式
- 4月05日(日) イースター(復活祭)
- 4月19日(日) 教会総会
- 4月29日(水) 連合スプリングセミナー
- 5月24日(日) 第50回東京地区連合の合同聖徒記念礼拝  
八千代キリスト教会は小林義宣兄がメッセージ
- 6月01日(月) 「教会と学校の懇談会」千葉栄和高校
- 6月02日(火) 野崎宅・家庭集会
- 6月08日(月) 午前東京地区教会の牧師会、夕方東京地区連合委員会
- 6月18日(木) 横田早紀江姉を囲む祈り会
- 7月13日(月) 午前東京地区教会の牧師会、夕方東京地区連合委員会
- 7月31日(金) 「ヤコブの梯子」原稿締め切り
- 8月02日(日) 運営委員会
- 9月20日(日) 創立30周年記念礼拝

## 祈って下さい

- 1) 籠生嘉清兄が東邦大学佐倉病院に入院しています。腎臓透析が行われています。お祈りください。
- 2) 吉田照子姉がカナダから無事に帰国されますように。
- 3) 成田のグループ・ホームにいる安藤真大兄の歩行機能が、リハビリができますように
- 4) 高齢者ホームにいる「八木明子姉」の健康と信仰の成長のために
- 5) 求道者が救われるように、特に奥田順一兄、池田英穂兄が受洗できるように
- 6) 横田めぐみさんはじめ拉致被害者の方々が、早く家族のもとに帰れるように
- 7) アメリカ・イスラエルとイランの間での戦争が終結し、ホルムズ海峡で安全通航ができますように
- 8) ロシア軍に侵攻されているウクライナに、平和が回復するように
- 9) 三郷教会の大澤美保夫人の、抗がん剤治療が副作用なく用いられ、健康が回復できますように

## 3分間講座 「一途に神に尽くした南ユダのヨシア王」

南ユダ国のヨシアはわずか 8 歳で即位、31 年間王として国を治めた信仰心の篤い人でした。ヨシアは数々の改革を進めますが、治世 18 年目(26 歳のとき)に乱れた国の立て直しのため、宗教改革を強力に進め、異教の偶像、祭壇などを破棄し、はびこっていた偶像礼拝を廃し、荒れ果てたエホバの神殿を改修しました。そのとき、大祭司ヒルキアが神殿の中から昔、神がモーセに命じて書かせたトーラーと呼ばれる「律法の書」を見つけました。その内容を聞いたヨシアは着ていた衣服を裂いて嘆き悲しみました。なぜなら律法の書は「いままでの王たちは神に背いてきた。その背きの罪に神の怒りが燃えている。しかし神を全力で愛すれば国は救われる」という厳しいものでした。おびえたヨシアは、これが真の神の声なのか判断を仰ぐため、信頼し尊敬していた女性の預言者フルダのもとに高官たちを遣わします。フルダは鋭い見識を持った人でした。彼女の判断は「トーラーは真の神の声で、王の誰しもが正しい姿で神の声を聞いて仕えるならば、国の破局は免れる」というものでした(列王記Ⅱ 22:14-20)。ヨシアは民の前で大声で律法を読み上げ、そしてまず歴代の王の時代に途絶えていた過越しの祭り(ユダヤ人が奴隷状態から解放され、エジプトを脱出したことを神に感謝し祝う祭り)を復活させ、トーラーの内容に沿って一途に神に仕えたと宣言、国の立て直しのため民に奉仕し続け、後に、これほどの王は後にも先にもいなかったと評価されるほどでした。しかし神は、一度背教した民の罪を完全には許していませんでした。



律法に従うことを宣言するヨシア

ヨシヤは、思いがけずエジプトとの戦いで矢に倒れ、後の国の災いは見ていません。ヨシヤの死を境にユダの歴史は暗転し、ついにネブカドネザル2世王により、バビロンの捕囚へと追いやられます。(池田)

編集後記:春の5月だというのに、7・8月のような夏日が幾日もありました。テレビでは熱中症に気を付けるよう、水分の補給、クーラーの使用を勧めています。人によっては、寒いくらいに体を冷やした方が、気持ちも引き締まって心身ともによく働くと言う人がいます。しかし、人さまざまな体質というのがあって、寒暖に関係なく少し汗ばむくらいの方が体調が良い、という人もいます。若い時は、無理は出来ても年を取るとそうもいけなくなります。マイペースで自分に合う環境で過ごすことが大事です。若い時とは異なり、無理をすると命にかかります。最近、知人で風邪をこじらせ肺炎で亡くなった人がいます。皆様もお気をつけください。(下橋)